

平成19年12月21日

NPO環境資源保全研究会

学術博士 理事長 吉田孝男

和田実学園目白プロジェクト（目白と略記）の風害に関し、以下の調査検討を行いましたので報告します。

1. NEDOの風力発電用データベースによる風況調査

風力発電で利用されるNEDO公表の風況データ(500mメッシュ)では、年平均の風速しがなく、役に立ちませんでした。

2. 豊島区の大気汚染関連情報による調査

次に豊島区の大気汚染関連の情報をインターネット調査したところ、環境保全課で区内3ヶ所で大気汚染計測を実施しており、当然 風向・風速も計測されていました。

平成17年度版ですが次を参照ください。

<http://www.city.toshima.tokyo.jp/kankyo/pdf/zenbun.pdf#search='豊島区の平均風向風速'>

測定地点は、次の通りです。

- ①区役所分庁舎（東池袋1-19-1）
- ②巣鴨3-13-12
- ③長崎3-6-24

目白・立地予定地に近いのは①ですが、航空写真（地図と共にweb調査）をみると、①の測定点の周囲が、高層ビル、高架高速道路があり、②は北側に学校があり、その風向データに影響が出ていると予想されます。

①、②は北東、東北東、北北東、東の風が多いと報告されています。

航空写真では、目白・立地予定地の北側、西側、東側は、高層の建物がほとんど無い状況ですので、その周辺建物状況からすると、③の測定点のデータを参考にすることが良いと判断されます。

長崎測定室のH16年の風向は、北北西18.1%、北12.0%、南南西10.0%と報告されています。

3. 風害対策検討（案）

今回の目白・立地予定地は、ほぼ南北（多少南南西―北北東）に走るJRに沿っており、そのJR空間が風の道となっていると予想され、長崎測定室計測の風向の風が、建設予定地上建築物の壁面に当たり、その風の一部が下向きの風となり、線路と目白・立地予定地との間にある狭い歩道に、吹き付ける可能性があります。

この歩道への風害対策としては、冬場の下向き風の風速を減速させるため、ネット状のフェンスを設け、植栽するのが、1つの方法と考えられます。

<http://www.hana300.com/kizuta.html>

今回の目白・立地予定地上建物は、ほぼ南北に走る7階建ての長方形で、南および北の壁面積は、西側、東側壁面積の約3分の1しかなく、従って北風、南風の強風が吹いても、北／南壁面に風が当り、風速が加速されて風害が発生する恐れは少ないと予想されます。

特に北側は、高層部の北壁面は、近隣の住居より多少離れた位置となっており、北風による風害発生は、ほとんど無いと予想されます。必要であれば西側と同様の風害対策は可能です。

南風については、立地予定建物の南側に、目白通り沿いにほぼ7階建てのビル群が壁状に既存しており、南、南東方向の風が、強く立地予定建物に当たることは少ないと予想されます。従ってこの方向の強風による風害発生は、ほとんど無いと予想されます。

一方立地予定建物の東および北東側は、二階建ての住居群、および学校グラウンドがあり、この方向の風が定常的に多いようであれば、立地予定建物近接の住居に対し、何らかの風害対策が必要となりますが、幸いに豊島区の情報では、東および北東方向からの風の率は少ない模様であり、特別な風害対策は不要と判断されます。

逆に立地予定建物が、強風を遮断する役目を果たすことも多いと考えられます。

以上